



いぶき

いぶき 第36号
 発行者 井上 一
 編集 患者サービス向上委員会
 香川県丸亀市城東町3丁目3番1号
 TEL (0877)23-3111
 FAX (0877)24-1147
 季刊誌 年4回発行
<http://www.kagawah.rofuku.go.jp>



あいさつ

院長 多田 慎也

香川労災病院は昭和31年4月に香川県丸亀市に開設されました。丸亀は金比羅街道の入り口にあり、江戸時代から人や物の移動の盛んな町であり、文化的伝統に恵まれた城下町です。当初は3診療科、40床で診療が開始され、その後の増床、診療科の増加を経て、平成9年には大規模な増改築が行われ、現在の16診療科、394床の体制が整いました。

香川県では全体が5つの医療圏に区分されており、当院の位置する中讃医療圏もその一つです。ここでは約9割の患者さんが同じ医療圏で受診されています。地域医療支援病院としての役割を果たすべく、今後も地元丸亀市医師会や近隣の医師会と密接に連携し、地域完結型の医療体制の構築に努め、地域医療連携の推進、充実に取り組んでまいります。

香川県のがんによる死亡は急激に増加してきており、全国平均を上回っています。当院でもがん患者さんの割合が25%以上になってきており、消化器、呼吸器、男性生殖器、尿路、乳房等が特に多くなっています。これらの患者さんの約半数は手術治療を受けられており、放射線治療、化学療法などを合わせた集学的治療を行っています。

当院の放射線治療部門では、中四国地域でも数少ない最新鋭の放射線治療器の設置を進めており、治療対象となる患者さんに喜ばれる治療成績を期待しています。引き続き地域がん診療連携拠点病院として高度な専門的医療の提供を継続してまいります。さらに救急医療につきましましては、丸亀市はもとより周辺市町村の基幹病院として24時間対応の救急体制で皆様のニーズにお応えしております。しかしながら、一般病床もICU病床もフル稼働の状態でご迷惑をお

掛けすることがあります。現在、新救急棟の設計を進めるなど設備の充実を計り、さらなる機能の向上をめざしております。一方で、当院は労災病院として勤労者医療の推進する立場から、過労死や過重労働といった労働災害への取り組み、相談支援事業、産業保健活動、勤労者心の電話相談など、働く人々の健康管理、健康増進にも取り組んでいます。

当院は平成12年より臨床研修指定病院として、研修医の指導を行っており、各分野での専門医が指導医となり、研修の充実に努めています。初期臨床研修医のみならず後期臨床研修についても、日本内科学会をはじめ多くの学会の教育認定施設となっており、毎年数名ずつ研修医(レジデント)が専門コースへ加わっています。また医師に限らず多職種における医療人の

香川労災病院の理念
 働く人々や地域の人々に
 安全で安心のより良い
 医療と看護を提供します

飛蚊症について



眼科部長 小見山知之

の症状を蚊がとんでいるようにみえるという意味で飛蚊症といえます。色は黒から透明まで様々で数は1個から数個、時に多数、形も点状、虫状、糸くず状、輪状など色々あります。

明るい所や白い壁などを見たとき、目の前に虫や糸くずなどが飛んで見えませんか。視線を動かすと一緒に動き、まばたきや目をこすっても消えませんが、暗い所では気になりません。こ

外から眼に入った光は、角膜を通り、水晶体で屈折し、硝子体を通して網膜に達して光として感じます。硝子体に何らかの原因で濁りができると明るい所を見た時に、それが影として網膜にうつり、飛蚊症が起ります。即ち飛蚊症の原因は硝子体

の変化です。濁りの原因には、生理的な硝子体の正常な構造物(細胞や線維)や後部硝子体剥離と、病的な網膜裂孔や網膜剥離、網膜の血管の病変、ぶどう膜炎、感染症、硝子体出血などが含まれます。

病的でない自然な症状は生理的飛蚊症といえます。硝子体には、眼の環境を維持するため寒天と同じように透明な線維や多少の細胞成分があり、それが光の加減で影を作ります。年を取ると硝子体の機能が老化して濁ったり(変性)、ゼリー状から液状に変わり、収縮して網膜からはがれます(硝子体剥離)。

これは髪が白髪になるのと同じ生理的現象です。60歳前後になると硝子体が網膜からはがれ、硝子体と網膜の間にすきまができます。これが後部硝子体剥離です。後部硝子体剥離が起こると硝子体の後ろ側の膜が網膜に写り、急に飛蚊症が現れ、眼に大変な事が起こったのではと心配されます。誰にでも起こる生理的現象で、それ自体は問題ありません。飛蚊症になる前後にピカピカ光るものが見えた場合、後部硝子体剥離が起こったと考えられます。60代前半に好発します。50代で2割、60代で4割、70代で7割の人に起こり、中等度以上の近視では10年位早く起こります。

眼科で生理的飛蚊症と診断されれば治療の必要はなく経過をみます。硝子体剥離は病気でありませんが網膜に孔があく網膜裂孔や網膜がはがれる網膜剥離という怖い病気を起こす事が

あります。治療や定期検査が必要なのは飛蚊症を起こすことがある網膜裂孔や網膜剥離、網膜の血管の病変、ぶどう膜炎、感染症、硝子体出血などです。最も注意を要するのは網膜裂孔です。初発症状として飛蚊症が81%あります。特に60歳前後に突然、飛蚊症を自覚した場合は早急に眼科を受診し、後部硝子体剥離の有無、後部硝子体剥離で生じる可能性がある網膜裂孔の有無をチェックしてもらうことが大切です。病的飛蚊症を起こすような病変(糖尿病、高血圧など)を持っている人や、眼外傷を受けた人が飛蚊症に気付いた場合も早急に眼科を受診する必要があります。生理的飛蚊症と診断されれば、ひとまず安心ですが、同じ人に違う原因

で飛蚊症が起きることもありえます。前は飛蚊症がすぐに良くなったからといって、次に起きた飛蚊症が同じとは限りません。一度よくなったいた飛蚊症が再びひどくなったら、すぐ検査をうけましょう。本当に飛蚊症か相談し、飛蚊症と診断されたら精密検査で網膜や硝子体の検査をうけることをお勧めします。生理的飛蚊症なら治療法はありませんが、病的な症状(網膜裂孔、網膜剥離)では手術が必要

です。飛蚊症は病気でないものがほとんどですが、思いがけない目の病変が原因となっていることがあります。症状に気づいたら早めに眼科で検査を受けましょう。早期発見、早期治療があなたの目を守ります。

メタボ対策は「規則正しい生活」「バランスの取れた食事」「適度な運動」と言われています。今回は「適度な運動を習慣にする」についてお話しします。

メタボを予防しましょう！

リハビリテーション科 技師長 多田 羅 昭二

まず、運動を始める前に、運動が出来る状態かどうか知ることが大切です。

すでに何らかの病気に罹っているかもしれない方は医師のメデイカルチェックをうけましょう。病気によっては運動を控える時期にあるかも知れませんが、運動を行ってはいけない時間帯が有るかもしれません。運動前の体調も要チェックです。微熱

がある、睡眠不足である、食後間もないなどの場合には体に予想以上の負担が掛かります。運動の効果は48時間程度続くといわれていますので、2日に1度のペース以上で続けることが必要です。

また運動の強さは少し汗をかく程度、いわゆる有酸素運動です。歩行、サイクリング、水泳などですが、膝痛のある方には水中歩行など工夫が必要で、ペースを守ることが大切です。競争心を煽られる運動は適していません。1回の運動時間は20分以上、脂肪を効率よく燃焼させ

られる状態になります。「時間がとれない」という忙しい方は車、エレベーター、エスカレーターなどを控えて歩かなくては如何でしょうか。テレビを観ながら足踏みするなど「ながら運動」もお勧めです。

手術の予定が決まった患者さまに

薬剤部 寺本 忠弘

血液をサラサラにする作用を持つお薬については、手術前に一定期間医師の指示により中止する場合があります。

処方箋によらず患者さま自身が購入できる市販薬にも、術前は控えた方がよい成分が含まれたものがあります。例えば市販薬の解熱鎮痛剤にはアスピリンを成分として含むものがあります。

アスピリンは低用量で服用した時に血液をサラサラにする作用を持ち、高用量で服用した時には血液をサラサラにする作用は弱まり、解熱鎮痛作用を示します。市販の解熱鎮痛剤にアスピリンが含まれている場合は、解熱鎮痛効果を目的としているので、高用量のアスピリンが含まれています。それでは、高用量のアスピリンには、血液をサラサラにする作用は全くないの

でしようか。市販薬の解熱鎮痛剤で高用量のアスピリンが含まれている商品について調べたところ、商品の中で説明書には「手術前の方は控えてください」という記載があります。低用量の時ほどではないが、血液をサラサラにする作用が全く

ありません。1回の運動時間は20分以上、脂肪を効率よく燃焼させられる状態になります。「時間がとれない」という忙しい方は車、エレベーター、エスカレーターなどを控えて歩かなくては如何でしょうか。テレビを観ながら足踏みするなど「ながら運動」もお勧めです。

メタボは血管に大きな影響を与えます。血管の病変は全身の臓器の病変につながります。みんなが規則正しく、楽しくメタボを予防しましょう。

ゼロとは言いきれないので念のために服用は控えていただいた方がよいということです。

また、健康食品にも色々な商品が販売されていますが、その中にも出血リスクを有するものが含まれている場合があります。

イチョウ葉エキス、ジンジャー、ガリリックなどは血小板の凝集を抑制し、手術時の易出血の可能性が指摘されています。他に魚油サプリメントについても出血リスクの報告があります。出血リスク以外にも、手術時の麻酔に影響を及ぼす可能性があるサプリメントの報告もあります。

服用にあたっては主治医の指示に従うこと、基本的には控えることができるサプリメントについては特に手術前は控えていただくことが安全な手術につながると思います。

なお、服用薬の服用継続・中止については、中止により梗塞のリスクが高まると判断される場合や手術の種類などにより、血液をサラサラにするお薬も中止をしない場合もありますので、ご自分で判断せず必ず医師の指示に従ってください。

労災病院の思い出

元副院長 鶴野 正基

あれは、昭和52年の6月初め頃だったと思うが、岡山大学医学部第一外科の医局長から「香川労災病院に空きができるからどうぞ」という話があり、一も二もなくOKの返事をしました。6月の終わりから7月の終わりにかけ「お礼参り」ということで諸先輩のところへ行かされたが、それも済んで8月10日に正式に赴任しました。

未だ受け持ちの患者がほとんどいない8月20日過ぎだったと思うが、田淵先生の患者で胃癌の手術に助手でついていたが、手術直前に「やりなさい」ということでやらしてもらい、「これからは手術は全部やりなさい」と言われた記憶が蘇ってきます。当時の外科は、田淵、中島、井上、関、鶴野に加えて、大橋が脳外科（開設はしていない）ということでした。医局もばらばらで総合医局があつて外科医局・内科医局があり、整形外科医局は別の場所にあつた。医局の人数も今では考えられない18〜19人であつた。総合医局では囲碁が盛んで、我々のような岡目八目から金武先生・影山先生など上手な先生が居られ、5目〜6目置かされ我々の相手をしてくれた。外科医局には2段ベッドがあり、坂出から通つて来ていた関係で時々利用させてもらった。

その頃、運動部も盛んで野球

部、テニス部、バレー部、卓球部などがあり、それぞれの中四国労災病院大会があり活動していた。テニス部（今風に言えばソフトテニス）の部長を井上先生の後釜にいうことでテニス部に籍を置いたがやったことはなかった。中四国の大会も毎回出かけていたが、そのほか岡山労災病院との定期戦もあり、勝つたり負けたりと鎗を削っていたことが思い起こされる。

スポーツといえば院内ソフトボール大会や卓球大会、そして院内大運動会が盛大に行われていたのを思い出す。ソフトボール大会は河川敷で一日かけて、4チームに分かれ熱戦を繰り広げた。卓球大会は院内のリハビリ棟でやられていたように思われる。院内運動会は会場を借り上げるのが大変で、訓練学校や城西小学校の校庭で行われていた。これまでに天気の日が最も多い11月3日に決まっていたように記憶しており、その日に行われ家族も集まり、またうどんやおでんなどが提供され舌鼓を打ち、楽しく過ごした。

深いものがある。

さて、病院へ眼を向けると当時は全6病棟で254床だったように記憶している。最高3階で外科病棟は3階にあつた。リカバリーという1室がナースステーションの隣にあり、術後の患者はもちろん重症の患者が入り、現在のICU棟のような使い方であった。3床しかなく、記憶に残る患者も何人かいた。個室が4床で病棟全体で34床しかなかった為、いつも満床であった。そのうち、病院にICUが必要だという声もあがり、ICU設置準備会のようなものができ準備委員長を仰せつかった。

労災病院群では当時関西労災病院がICUを持って活動中というところで、関西へ見学に行った。当然看護婦も必要だということでも多数の看護婦を新規採用で入れたが、まだ誰もICUというのは未経験の為、1年間という期限付きで関西労災病院へ何人か送り込んだ。1病棟分とICU棟も新築の予算がついたので工事が始まり、中身を揃えるのに取りかかった。

実績で十分ではないか？いやそれ以上必要なのはなかるうか？というようなことが終始頭の中を駆けめぐった。予算との兼ね合いもあった。なんとか出来上がったが、建物そのものより麻酔科が三人セットで来てくれたことがなによりであった。それまでは誰がICU担当になるのかということもあった。

ICUが出来上がったことで大きな誤算が生じた。ICU、リカバリーが病床に数えられたということであった。また救急が増え、重症患者が増えたことであつた。

当時、近隣の病院にはICUはなく麻酔科医そのものが居ないということもあったが、ICUの評判を聞きつけて常に満床の状態であった。またICUの隣に救急病室を2床作り急患に対応することとしていたが、これが誠によく機能していたように思われたが、満床の状態を解決するために救急病室に居られるのは24時間以内ということを打ち出してはいた。しかしなかなか思うようにはいかなかった。病室も常に満杯の状態であり、ベッドを確保するのが一苦労であった。予定の患者が入院できなかったこともあつたし、入院関係の苦労は大変であつた。今は昔、懐かしいそして思い出深い日々であり、労災病院の発展の歴史でもある。

外 来 診 療 予 定 表

診 療 科	時 間 ・ 診 察 室	月	火	水	木	金	
内 科	午 前	一 診	荒木	永田	滝本	荒木	滝本
		二 診	北村	大澤	北村	大澤	永田
		三 診	小原	西	出口	小原	吉武
		四 診	小路	河野	東	小路	東
		五 診	後藤	岩田	吉武	岩田	吉野
		六 診	神野	菅間	平生	後藤	西
循 環 器 科	午 前	一 診	松浦(予約)	渡邊(初診)	宮本(予約)	水尾(初診)	水尾(初診/予約)
		二 診	宮本(初診)	水尾(予約)	松浦(初診)	渡邊(予約)	
	午 後		ペースメーカー(第2,第4)				
外 科	午 前	一 診	村岡	津村	立本	村岡	津村
		二 診	小林	立本	國土	渡辺	木村
	午 後		呼吸器 津村	肝・胆・膵 國土	※乳腺 村岡・小林・渡辺		
整 形 外 科	午 前	一 診	横山	高田(真)	廣瀬	前原	山下
		二 診	生熊	森谷	山下	森谷	横山
		三 診	前原	高田(敏)	生熊	浅野	高田(真)
	午 後	リウマチ外来		リウマチ外来			
リハビリテーション科	午 前	高田(敏)	田村	高田(敏)	生熊	高田(敏)	
形 成 外 科	午 前	田中	田中	田中	田中(午後)	田中	
脳 神 經 外 科	午 前	一 診	藤本	吉野	柚木	藤本	吉野
		二 診	柚木	西田		平下	
		三 診	河内	平松			
泌 尿 器 科	午 前	一 診	西	西		西	西
		二 診	水野	水野	水野	水野	水野
産 婦 人 科	午 前	一 診	川田	大倉	川田	木下	大倉
		二 診	木下		木下		
		癌 検 診	大河原	大河原	大倉	大倉	大河原
		産科予約検診	大倉		木下		川田
		産後検診				大河原	
眼 科	午 前	一 診	小見山	小見山	小見山	小見山	小見山
		二 診		國土	國土	國土	
耳 鼻 咽 喉 科 頭 頸 部 外 科	午 前	一 診	森下	荻田	森下	荻田	森下
		二 診	荻田	平田	平田	津村	平田
		三 診	津村		津村		津村
	午 後			腫瘍外来			
放射線科(放射線治療)	午 前(予約)	三谷		三谷			
	午 後(予約)	三谷		三谷		三谷	
歯 科 口 腔 外 科	午 前	一 診	森川	森川	森川	森川	森川
		二 診					松村
麻酔科(ペインクリニック)		一 診	北浦	鈴木	北浦	戸田	北浦
ス ト マ 外 来				看護師		看護師	
緩 和 ケ ア 外 来	9時~10時		当番制				

※栄養相談…月曜日から金曜日まで随時予約制にて、栄養相談を行っております。ご希望の方は、主治医にご相談下さい。

健 康 診 断 セ ン タ ー

日帰りドック……………	1日20名	火、水、金曜日	海外派遣労働者の健康診断……………	随時
一般健診……………	1日20名	月、木曜日	特殊健康診断……………	随時
脳ドック……………	1日1名	月、火、木曜日	振動障害健康診断……………	1名 月曜日
雇入時の健康診断 定期健康診断	1日20名	月2回	健診車による出張健診……………	月~金曜日
			特定健診……………	随時
※全ての健診は予約が必要です。 ※健診の曜日は変更になることがあります。				
●当院は、協会けんぽ生活習慣病予防健診事業の指定病院となっており、該当する方は補助を受ける事が出来ます。				
●健診の結果、二次検査が必要となった場合、乳腺外来のみ当院で予約を行っております。				

砂糖の調理特性ってなあに？

主任栄養士 奥村 誠子

日本に砂糖が伝来したのは奈良時代。当時は薬として珍重されていました。江戸時代でも、砂糖は将軍への献上品になるほど貴重な物でした。

砂糖には「料理に甘味を補う」という重要な役割以外にも、料理・加工食品をおいしくする様々な効果(調理特性)があります。

【**親水性**】肉に砂糖をもみ込むと砂糖が蛋白質と水分を結びつけ、肉を軟らかくします。しかも、砂糖には肉や魚の生臭みを消す「マスキング効果」があるので、さらにおいしくなります。

【**保水性**】砂糖を使うことで、食材と水分が離れにくくなるため、佃煮やジャムがしっとりとして上がり、時間をおいてもあまり固くなりません。

【**浸透性**】組織を軟らかくして他の調味料の浸透をよくします。

【**泡の安定性**】泡立てた卵白や生クリームなどの気泡を保持します。スポンジケーキを作るときに砂糖を加えるのは、この性質を活かしたものです。

【**でんぷんの老化防止**】ご飯は冷めると次第に老化し、固くなりますが、砂糖の入った寿司酢を合わせた寿司飯は、でんぷんのなかの水分が砂糖を抱え込み、老化が防止されています。

【**メイラード反応**】焼けた色や香ばしい香りをつけます。これは蛋白質と砂糖が一緒になったものが加熱により変化し、メラノイジンができ褐色になる反応

【**ゼリー化**】果物に含まれるペクチンをゼリー化します。ジャムのとろっとした感じは、この効果を生かしたものです。

【**発酵の促進**】砂糖はイースト菌のえさになり発酵を促します。

【**でんぷん性食品のきめを細かくする**】葛湯に砂糖を加えると、なめらかに仕上がります。

【**温度による変化**】砂糖は100℃以上の加熱でシロップ状、カラメル状などと温度により形状が変わります。

新任医師紹介



第5内科部長 吉野 すみ

四月より、当院に勤務させていただきます。中学、高校と高松で過ごし、大学

【**蛋白質の凝固温度を上昇させる**】卵は急激な加熱で固くなり、舌触りが悪くなりますが、砂糖を加えると緩やかに凝固するので、卵料理が軟らかくふわふわに仕上がります。

他にも砂糖には、「苦みや酸味を緩和する」、「料理につやを出す」などの効果があります。これら砂糖独特の性質はお菓子作りや食品加工に利用され、食生活に潤いをもたらしています。

卒業後に戻って来ました。県立中央病院、三豊総合病院、滝宮総合病院に次いで4カ所目の病院です。これまでは消化器、内科一般の診療を担当していました。現在は見習い中で研修医に戻ったようです。非常に忙しくも生き生きと働いていたのが遠い昔のことに感じられます。過去には12年間も当院のすぐ傍に住んでいましたが、連日深夜の帰宅で、病院のことも丸亀につ



● 労災病院周辺で見られる鳥 ● **キジバト**

主任薬剤師・吉村正則

一般に山鳩と呼ばれているハトで、平地から山れ地まで幅広く見られます。あまり大きな群れを見られず、単独か少数で行動します。体色は褐色で、縞模様が通っています。繁殖期になると、首の皮膚が膨らみ、赤い色を帯び、喉の裏側に赤い肉垂が現れます。



外科医師 薬田 和也

はじめまして。4月から香川労災病院外科に赴任して参りました薬田和也と申します。出身地は広島県福山市です。出身大学は産業医科大学です。医者になりこの春で6年目を迎えました。以前2年前までの1年間香川労災病院に勤務していましたが、丸亀は今回で2回目ということになります。こちらに赴任する前の2年間、福山市にある日本鋼管福山病院で産



整形外科医師 山下 一太

はじめまして。今年の4月から当院で勤務させていただきます。整形外科の山下一太(かずた)と申します。出身は高松で、高松高校、福岡県の産業医科大学を卒業後、これまで福岡県内の病院で勤務してきました。最近では趣味に時間を当て

お知らせ

● **公開健康講座**

日時 平成22年6月17日(木) 14時~15時30分

場所 香川労災病院管理棟会議室

内容 胃がん・大腸がんここがポイント
最新の話題も含めて

講師 消化器内科部長 小原英幹
内科医師 吉武 晃

参加 無料

● **セタロビーコンサート**

日時 平成22年7月7日(水) 15時~16時

場所 香川労災病院1階外来ロビー

出演者 林田戦太郎(マンドリンコンサート)(作曲家・マンドリニスト)

九州各地のマンドリンの指導や作曲・コンサートを数多く手がけ、日本マンドリン連盟理事も歴任。各地のコンサートにも出場し好評を呼んでいる。

木村九一(ギタリスト)

ることがなかなかありませんが、大学時代は時間をみつめてアメリカンのバイクでツーリングに出かけたり、アジア各地などに一人旅に出たりしていました。また学生時代の部活動として、ハンドボールやバスケットボールにのめり込んでいて、私自身もよく怪我をしていたこともあり、整形外科の中でも、外傷やスポーツ整形に興味を持ってこれまで診療に当たってきました。

今回12年振りに地元の香川に戻っての勤務で、患者さんと讃岐弁でやりとりしながら、地元の方々と診療できることに喜びと責任を感じています。故郷の医療に貢献するために、微力ながらがんばっていきますので、皆さんどうぞよろしくお願いいたします。



整形外科医師
文 浩光

4月より整形外科に勤務しております文浩光と申します。出身地は、はだか祭り有名な岡山市西大寺で、平成20年に徳島大学を卒業後、倉敷成人病センターで初期研修を行いました。高校ではサッカー部、大学ではラグビー部に所属していましたので、フットボール系のスポーツには多少興味があります。香川労災病院は症例も多く、いろいろと経験し、皆様に信頼される医師になれるよう努力して

きたいと考えております。丸亀は初めてですが、おいしいうどん屋さんや魚料理のお店などいろいろありそうなので、おすめのお店があればご紹介したいだけだと思います。まだまだ至らぬ点も多く皆様にはご迷惑をおかけするとは思いますが、よろしくお願いいたします。



第5脳神経外科部長
西田あゆみ

4月1日より脳神経外科に勤務しております西田あゆみです。出身は岡山県倉敷市で、平成9年に岡山大学を卒業しました。卒業後は山口・鳥取・広島などで勤務する機会を与えられ、昨年度までは岡山大学病院で5年弱、脳血管内治療(カテーテル手術)を専門として従事して

ました。趣味はありきたりですが、ドライブと読書です。天気の良い休日に音楽を聴きながらだらだら当てもなく運転するのが好きです。四国にはまだ行ったことのない場所がたくさんあるので、楽しみにしています。読書はどこでもできて手軽なのですが、読みたい本が多くて時間が足りません。ファジアーノの応援も楽しみの一つで、少し遠くなりしましたが、時々橋を渡って観に行っています。四国での生活は初めてで、北側には海があることに、やっと慣れてきたところです。いまま

経験してきたことを生かして、またこちらでの新たな経験を取り入れて、地域の皆様の役にたてればと考えております。よろしくお願いいたします。



脳神経外科医師
河内雅章

はじめまして、平成22年4月1日より脳外科でお世話になっております河内と申します(「こうち」と読みます)。広島県出身、平成19年香川大学医学部卒業、初期臨床研修終了後、香川大学医学部脳神経外科に入局いたしました。香川大学脳神経外科田宮教授、当院脳神経外科藤本先生の御配慮により当院にて後期研修を日々研鑽させていただいております。

「私の個性がわかるように、趣味や休日の過ごし方等を」との誌面の依頼を頂戴いたしましたので、少しご紹介いたします。趣味は音楽鑑賞やベースやドラム等の楽器演奏、カメラ、料理等、広く浅くです。休日は病棟での業務が終われば、妻と当院の周囲の散策をしています。赴任して2ヵ月たち、脳外科の先生方の日々の業務に何とかくつついて、振り落とされないうちに走り回っております。まだまだ皆様方に御迷惑をおかけすることも多いと思いますが、これからは何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



検査科医師
守都 敏晃

4月1日より検査科でお世話になっております、守都敏晃と申します。

2年半前より週1回、非常勤として岡山大学より通っていましたが、この度2人目の病理医としてお世話になることになりました。出身は愛媛県松山市生まれの岡山育ちで、中学高校時代を松山で過ごした後、再び岡山で学生時代から研修医、大学院と過



臨床研修医
池神 智絵

この度香川労災病院に研修医2年目として、赴任いたしました。現在麻酔科で研修に励んでおります。出身地は東京ですが、香川大学入学とともにこちらに引越してきました。祖父父母が坂出に住んでいたこともあり、香川県は幼少の頃から馴染みのある土地です。この地での医療に従事できる事は、大変意義のある事と思っています。まだまだ、未熟な部分ばかりですが、なんとかご意向に沿えるよう、研鑽に励むつもりです。よろしくお願いいたします。

ごし、今春十数年ぶりに四国に戻ってまいりました。趣味は旅行で、国内海外、また車から飛行機まで、どのような移動手段でも好んで自ら計画を立てて行きます。こちらに赴任してからは、週末になるたびに市内、県内のうどん屋を探索して回っていて、香川でしか味わえない味を堪能しています。皆様のお目にかかる機会はずう多くないかもしれませんが、病理に関する事で分からない点などあれば、いつでも気軽に検査室のほうまで訪ねていただければと存じます。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、これらよろしくお願ひ申し上げます。

編集だより
患者サービス向上委員会
北浦 道夫

皆様のご支援によりましてこの「いぶき」も第36号を迎えることができました。編集部ではより内容を充実させようと日々頑張っております。今まで院内各部署の紹介や外来の待ち時間のアンケート調査の結果などを掲載してきました。他にも読者の皆様の興味がある話題が数多くあると思います。もしこういう記事を掲載して欲しいというご要望をお持ちの方がおられましたら、是非職員の方までご意見をお寄せ下さい。お待ちしております。